

【乳がんの乳房温存術後に対する寡分割照射について】

乳がんに対する乳房温存術後の放射線治療には、5 週間かけて行う通常分割照射と、3~4 週間で終わる寡分割照射という方法があります。

通常分割照射は、従来日本で乳房温存術後に対して標準的に行われてきた照射方法で、温存乳房全体に 50 Gy / 25 回 / 5 週（1 回 2Gy）の照射を行うものです。

寡分割照射は、治療期間を短縮するために開発された照射方法で、40~43 Gy / 15~16 回 / 3~4 週（1 回 2.5Gy 以上）の照射を行います。カナダやイギリスでの臨床試験を元にしており、欧米では一般的な照射方法です。

近年、日本でも寡分割照射をする施設が増加しつつあり、日本で行われた臨床試験（JCOG0906）でも寡分割照射は安全に行えると報告されました。保険診療制度上も 2014 年の診療報酬改定で寡分割照射が承認されています。

これまで通常分割照射と寡分割照射を比較した臨床試験では治療成績や副作用に差は認められていません。寡分割照射が始まってから時間も経ち、長期的な治療効果にも大きな差が無いことが認められてきています。両者に差が無いのであれば、治療期間が短くなる寡分割照射の方が通院の負担が少なくてすみ、患者様のメリットが大きいと考えられます。そのため、当院では特に事情が無ければ寡分割照射を行っています。

ただし、寡分割照射は乳房温存術後の方のみ保険適用となります。乳房全摘術後の方は通常分割照射となりますのでご了承ください。また、細かな適応の判断については施設ごとに異なります。詳しくは担当の放射線治療医にご相談ください。

【2026 年 6 月の診療報酬改訂について】

2026 年 6 月の診療報酬改訂では、乳房温存術後の放射線治療が照射方法や回数に関わらず定額まとめ払いになりました。そのため、これまでは照射 1 回毎に発生していた費用が治療初回にまとめて請求されることとなります。初回の請求額が高額になる場合は、あらかじめ当科からのご案内いたします。

この改訂は乳房温存術後の放射線治療に対するもので、乳房全摘術後の放射線治療には適用されません。乳房全摘術後の場合はこれまで通り照射 1 回毎に費用が発生します。

2026 年 6 月 10 日